

2011年度 早稲田大学 国際教養学部

日本史 解答例

I 古代・中世の日中関係 <易>

問1 冊封 問2 ア 問3 エ 問4 ウ 問5 オ
問6 イ 問7 オ 問8 ア 問9 ア 問10 エ

4題ある正誤問題は、どの問題も容易に誤文を判別できる問題ばかりで解きやすい。問8の「香料」は日宋貿易の輸入品として問われることが少ないためつまづいた人がいるかもしれないが、消去法で考えれば十分解けた。貿易品は時代や相手国によって変わるため、単発に暗記していても混乱するだけである。各貿易を比較しながら、体系的に学習することの大切さを感じるだろう。

II 中世・近世の政権の所在地 <易>

問1 エ 問2 オ 問3 撰銭令 問4 足利義満 問5 ア
問6 ウ 問7 イ 問8 オ 問9 イ 問10 エ

この大問にも難問はない。問1は建武式目の史料を読んで、入試における出題ポイントに注目していれば正解できただろう。問10では、「大政奉還」や「王政復古の头号令」が幕府や薩長にとって、どのような意味をもつできごとだったのかを、きちんと理解できているかが問われている。

III 近現代の内閣 <標準>

問1 イ 問2 エ 問3 石井・ランシング協定 問4 ウ 問5 ア・エ
問6 ア・オ 問7 ウ 問8 エ 問9 岸信介 問10 ウ・エ

問2・問6・問7がやや難しい問題。問2の「戊申詔書」は知っている必要はないが、戊申詔書の内容を思い出しながら、選択肢を見くらべてそれに近そうな史料を選ぶ。正解することは十分可能だ。問7の「大日本婦人会」は年代が出題されることがほとんどないため難しかっただろう。ただし他の選択肢は時期がわかりやすい。ウとエに絞り込むことは可能なはずである。

IV 明治時代の政治・法律 <易>

問1オ 問2エ 問3ア・エ 問4立憲帝政党 問5ウ

問6オ 問7オ 問8イ 問9イ 問10エ

本学部では定番の英文史料問題だが、今年は昨年のような難しさはなかった。問7などは、要するに選択肢のできごとを見くらべて、もっとも後におこったできごとを選べばいいだけだし、問8は消去法で解けた。ちなみにここで「ホフマン」を覚えようとするのは、出題率を知らない受験生やただ正解を解説しているだけの問題集である。本当の受験対策というのは、よく出題されている残る選択肢の人物の役割を果たしたかを知ることだ。

講評

日本史を単なる用語暗記科目だと思っていた受験生には、刃が立たない問題が多かっただろう。Ⅱの問6や問10、Ⅲの問8や問10など、歴史事項を「理解」できているかが試された。実に良い問題となっている。本学部は英語に比べて日本史の配点が低いが、こうした問題に対処できるレベルにならないと、とんでもなく低い点数になってしまうだろう。